



桶売中学校



川前地区にある桶売中学校で最後の卒業式が行われ、地域のみならずなど多くの方が駆け付けて卒業生2名の門出を祝福しました。

また、卒業式の後には閉校式が執り行われ、77年間の歴史に幕を閉じました。1947年（昭和22年）の創立以来1、779名の卒業生を送り出した桶売中学校。閉校式は学校へのありがとうございました。



川前地区2中学校

閉校式（3月13日）

小白井中学校



同地区、小白井中学校でも最後の卒業式が行われ、1名の卒業生が思い出の学び舎を巣立っていました。

卒業式の後には執り行われた閉校式では、地区の皆さんや歴代卒業生などに見守られ、1885年（明治18年）から続いた長い歴史に幕を閉じました。

これまで454名の卒業生を送り出した小白井中学校。長い間お疲れさまでした。



ランナーのまぶしい笑顔



フラの街 いわきを翔ける 風になれ!

IWAKI 2024

SUNSHINE MARATHON .2.25

さらに詳しく



最高のボランティアスタッフ



市長と地域ふれあいトーク

2月1日、市長は「泉商店会」の皆さんと懇談し「いずみふれあいマルシェ」の開催や泉ふるさと祭りでの「ごっちゃ市」への出店、YouTube配信による店舗紹介や各店舗をまわるスタンプラリーの開催など、泉地区の賑わいづくりの取り組みについて話し合いました。

また、2月6日、市長は「内郷女性消防クラブ」の皆さんと懇談し、高齢者世帯への防災啓発活動や防災手話講習会の取り組みなど、災害発生時に配慮が必要な方への支援方法について話し合いました。

その後、市長は「NPO法人常磐炭田史研究会」の皆さんと懇談し、常磐炭田の産業遺産を調査・研究・保存する活動や、産業遺産を活用した観光振興の取り組みなどについて話し合いました。



▲ 泉商店会の皆さんと市長



▲ NPO法人常磐炭田史研究会の皆さんと市長



▲ 内郷女性消防クラブの皆さんと市長

写真が語る「いわき」の歴史



各市町村悲願の大学誘致

4年制大学の誘致運動は、昭和32（1957）年、石城地方市町村議会議長会が誘致を決議したことに始まります。

この運動はその後も継続され、昭和41（1966）年10月にいわき市が発足した後の昭和46（1971）年10月、「いわき市大学誘致期成同盟会」が結成され、次いで、同年12月には市議会において4年制大学（理科系を想定）の誘致促進が決議されると、その誘致場所としていわきニュータウンへの誘致がクローズアップされていきました。

さらに、いわきニュータウン構想の中に、高等学校、中学校などともに高等教育施設（大学）が具体的な立地場所として位置づけられました。

背景には、若者が進学・就職のために市外へ流出したこと、市が県内最大の工業都市であったこと、4年制の大学がなかったことなどがありました。いわきニュータウンの起工に前後して、昭和53（1978）年には市議会に「市議会大学誘致特別委員会」が設け

られ、次いで昭和55（1980）年には市がいわきニュータウン内に大学用地約34畝を取得し、受け入れ態勢が決まりました。

敷地を確保して受け入れ態勢を整えた市は大学の誘致を進め、この結果、東京都に本校を持つ「明星学苑」の進出が決まり、昭和62（1987）年4月に「いわき明星大学」（現・医療創生大学）として開校しました。

（いわき地域学會 小宅幸一）



■写真 いわき明星大学建築工事起工式
〔昭和61（1986）年2月 いわき市撮影〕